

第31話 神無月：「修学旅行で感じたこと」

10月1日～2日にかけて修学旅行に行きました。海田小学校の修学旅行では、安全面も配慮して、2列で整然と移動することを伝統的に取り組んでいます。今年の6年生も海田市駅のホームに降りるときから、この伝統を守ろうと努力していました。

そんな6年生を見て心に残ったことが2つあります。一つ目は、**修学旅行にありがちな「そわそわ」した態度や行動が、海田町を出発するときから感じられなかったこと**です。その理由をいろいろ考えて、「自信」という言葉が浮かんできました。例年同様、4月の入学式をはじめ、学校のリーダーとして、行事を運営したり、下学年の世話をしたりしながら、多くの達成感を味わい自信をつけてきました。

これ以外に、今年の6年生は、**昨年度（5年時）大きな仕事をやり遂げています**。3泊4日の野外活動を題材とした劇づくりです。ここで、**子ども同士が関わり合いながら劇を創作したことで、お互いの気心がわかり、信頼関係を築くことができました**。これにより、学級開きから男女が仲良く話し合ったり、協力したりすること等が、4月当初からすでにできておりました。気心の知れた仲間との信頼関係が支えとなって、**修学旅行で家族と離れ、友達と過ごすという不安がずいぶん解消され、落ち着いた行動に表れているのではないかと**思いました。



2つ目は、**修学旅行を学び楽しむということ**です。さまざまな観光地に行き、そこでしか味わえない楽しさを班の仲間と共有することができました。1日目の地引網体験では、**運動会で踊った「海小ソーラン」の曲に乗せて動きを再現し、威勢の良い掛け声とともに1組2組に分かれて綱を引きました**。おかげで、一人一人が魚を持って写真が撮れるほどたくさんの魚を捕ることができました。



2日目の吉野ヶ里遺跡はあいにくの雨でしたが、子どもたちは、物見やぐらに登ったり、竪穴式住居に入ったり、祭祀や政治的儀礼の場所まで足を運んだりしながら、歴史を「体験」していました。また、バスの中では、**いろいろなバスレクを考えた友達の気持ちをくみ取り、クイズやゲームに積極的に参加していました**。

このようにお互いの信頼関係により、**格好つけることなく、自分の思いをありのままを表現できる集団になりつつあるの**を感じました。これが、**落ち着きの源**になっていると思います。もちろん宿泊体験学習で恒例となっている「友だちの良いところ見つけ」も十分時間を取って行い、自分や仲間の良さが、子どもたち一人一人の心に刻まれたと思います。

校長 寺岡 成希